

ラグビーワールドカップ日本大会公式戦招致実現のための取組充実を求める決議について

ラグビーワールドカップ日本大会公式戦招致実現のための取組充実を求める決議を次のとおり提出する。

平成26年3月17日提出

提出者 市会議員 井上 与一郎 ほか53名
自民党市議団, 民主・都みらい,
公明党市議団, 京都党市議団,
無所属(議), 無所属(副)

ラグビーワールドカップ日本大会公式戦招致実現のための取組充実を
求める決議に関する決議

ラグビーワールドカップは、世界中の200を超える国と地域において、約40億人が視聴し、チケット販売枚数も160万枚が見込まれる、オリンピック、FIFAワールドカップに次ぐ世界大会である。

今般、市長は、京都府ラグビーフットボール協会会長と合意し、ラグビーワールドカップ2019大会の公式試合を、西京極総合運動公園に招致される方針を固め、議会でも表明された。

ラグビーワールドカップ2019の翌年には東京オリンピック・パラリンピック、その翌年の2021年には関西ワールドマスターズゲームズ2021と、世界的スポーツイベントが3年連続日本で開催される。

その先陣を切るラグビーワールドカップ2019の公式試合開催が、ここ京都の西京極で実現すれば、市民が身近に世界トップレベルのスポーツに触れ合う機会であることはもちろん、国内外から多くの選手、家族及び観光客が京都に集い、京都の魅力を全世界に発信し、京都の都市格を更に高めると同時に、京都から日本を盛り上げる、正に千載一遇のビッグチャンスとなる。

元々、京都は、ラグビーとゆかりの深い土地である。下鴨神社の糺の森には、関西ラグビー発祥の地である「第一蹴の地」の石碑があり、これまでからトップレベルの多くの指導者及び選手を輩出している。

一方、京都市においては、市民の財産として、将来にわたり市民スポーツの振興に寄与することができる西京極陸上競技場兼球技場の大型映像装置、管理諸室・トイレ、照明設備、メインスタンドの屋根等の大規模改修を、府市協調により計画的に改修されようとしていたところであり、これらにより、ラグビーワールドカップの施設基準についても、クリアすることができることである。

よって京都市においては、ラグビーワールドカップ2019の公式試合招致実現に向け、全庁体制で取り組むことはもとより、京都府ラグビーフットボール協会をはじめ、関係団体との緊密な連携の下、市民の機運を高め、その応援も頂きながら、取組を推進していくことを強く求めるとともに、市会としても、招致実現に向け、全力で支援していくこととする。

以上、決議する。

年 月 日

京都市会